

第9期生募集!

2022年5月スタート

「BIM/CIM 原則適用」の悩みを解決!

CIMチャンピオン養成講座 2022



日時

2022 (令和4) 年 5月 ~ 2023 (令和5) 年 3月
※講座は5月~12月(全8回) 土曜日 13:00 ~ 17:00 に開催

受講料

550,000 円 (税込): 1社2名参加

内容

社会人向けの BIM/CIM 講座

講師

小林一郎特任教授をはじめとする多彩な講師陣

CIM を学ぶ!



オンラインと KOLC+ のハイブリッド講座

オンライン

講演

全8回、各1時間。最新の BIM/CIM 動向の話が聞けます。
講演内容は毎年変化しています。国土交通省の BIM/CIM、DX 全体の方針、発注者としての CIM の取り組み、受注者としては実際に BIM/CIM を活用した事例などがテーマとなっています。



演習

全8回、各3時間。演習を行います。参加者は事前に配布されたテキストとデータセットを用いて、講師の操作画面を見ながら実際にソフトウェアを用いて演習を行います。途中で行き止まった際はチャットで質問ができます。(演習ソフトウェアは裏面参照)



KOLC+

BIM/CIM 共有クラウド・KOLC+(コルクプラス) を利用しています。KOLC+では連絡事項の共有だけではなく、オンライン演習への質問、その他ソフトウェアにかんする質問等を受け付けています。わからないところがあれば、KOLC+で質問し、事務局が回答します。受講生の業務上の質問でも可能です。時には、受講生同士で回答して解決することもあります。



お申込み
締切

5/13(金)

お申込み・講座に関する詳しい内容は CIM チャンピオン養成講座のホームページをご覧ください。
お問い合わせはホームページ内のお問い合わせフォームよりお願いいたします。



CIMチャンピオン養成講座

<https://www.cim-champion.com/>



令和5年度からの「BIM/CIM 原則適用」への準備はできていますか？

国土交通省は令和5年度までの小規模を除くすべての公共工事において、BIM/CIMを原則適用することとしています。令和3年度より段階的に適用を拡大しており、令和4年度では大規模構造物においてはすべての詳細設計・工事において、それ以外でも、全ての詳細設計において、原則適用が義務付けられます。

BIM/CIM 原則適用に向けて、建設産業において求められていること

「令和5年度のBIM/CIM原則適用に向けた進め方」第5回BIM/CIM推進委員会資料より

遠隔臨場等に対応する
システム整備

デジタル技術等を建設現場に
応用する技術開発

3次元データや技術に
対応する人材育成制度

設計照査を高度化・効率化
するシステム開発

国土交通省におけるBIM/CIM活用実績は年々増加しており、令和5年度のBIM/CIM原則適用に向けて、BIM/CIMに関する基準類の整備などが着々と進んでいます。受注者サイドも原則適用に向けた対応準備が必要となっています。

BIM/CIM 原則適用のお悩みは、CIM チャンピオン養成講座で解決

環境整備

パソコン・ソフトウェアをご準備ください。(講座受講の方は下記のソフトウェア)
何が必要かわからない方にはアドバイスを行います。



技術習得

オンライン講座で下記の4つのソフトウェアの基本・応用を学びます。最終回では、それぞれのソフトウェアを用いた統合的な演習も行います。



人材育成

当講座は、1社2名でご参加いただくことを基本としています。2名で参加いただくことで社内への水平展開・人材育成へとつながります。



技術 / システム開発

講座の受講の成果が試されます。わからないときはKOLC+で相談ができます。(講座受講期間内のみ)



BIM/CIM 原則適用に対応する、演習ソフトウェア

InfraWorks

演習では最初にInfraWorksを学びます。初めてBIM/CIMソフトに触れる方も多いのですが、モデル上のリアルさから、感覚的に操作することができ、興味を持って取り組むことができます。

受講生の感想

- ・こんなことも、あれもできる、といったわくわく感を覚えました。
- ・モデル上のリアルさや、時間の感覚があることが新鮮に感じました。

Civil3D

Civil3Dは触れたことがあるという方も多いソフトウェアです。基礎編、応用編を学びます。学んだことがすぐ実務に活用でき、スキルアップにもつながります。

受講生の感想

- ・縦横断面を作成するなど活用しており、演習内容を復習しています。
- ・3次元設計計画が簡単にできるようになりました。

Revit

RevitはInfraWorksやCivil3Dとの操作性が異なるソフトウェアのため、演習では苦戦することも多くあります。実務でRevitを利用される方は少ないようですが、一度触れておく機会があれば、いざというときに便利です。

受講生の感想

- ・構造物はCivil3DよりもRevitがよさそうな感じがします。
- ・橋梁の設計をRevitを使って3次元で検討できれば面白いと思いました。

Civil3D InfraWorks Navisworks

統合的な演習

Navisworks

Navisworksはプレゼンテーションに便利なツールです。基礎的な操作方法からアニメーションの作成、干渉チェック、4d工程表などを学びます。

受講生の感想

- ・提案や協議に非常に役に立つので、活用したいと思います。
- ・シミュレーションやプレゼンに有効に使いたいです。